

午後に関く白い花と匙型の葉をした水辺の薬草

サジオモダカ (オモダカ科)

Alisma orientale Juzepczuk

部位	塊茎で通例、周皮を除いたもの
生薬名	沢瀉 (タクシャ) 日本薬局方収載
成分	アリソール A、B (トリテルペン) など
薬理	利尿作用、肝保護作用、抗腫瘍作用、抗炎症作用
薬能	利水薬 (薬性は体を冷やす性質：寒性である)
漢方	五苓散、猪苓湯、五淋散、八味地黄丸など



日本 (北海道、本州北部)、中国東北部、ロシア、モンゴル、北インドの湿地に生育する多年草。水底に根を張り、茎の下部は水中にあります、茎の上部や葉が水上にでている抽水植物です。高さ50~70 cmの花茎に多数の白色、ピンク、淡紫色の花を付け、午後に関花します。和名は葉の形が「さじ (薬匙など)」に似ていることに由来します。おせち料理に欠かせないクワイもオモダカ科の植物です。塊茎の周皮を除いて乾燥させたものが生薬の沢瀉です。漢方薬では利水薬に分類され、五苓散などに配合されています。また、漢方の世界では、生薬の性質 (薬性) があり、体を温める温性や体を冷やす寒性などに分類されています。沢瀉は、利水薬の中でも寒性を有していることが特徴で、抗炎症作用や利尿作用が強い生薬です。国内栽培すると中国から輸入されているような大きな塊茎を形成しません。今後の国内栽培における重要課題となっています。

コショウ (コショウ科)

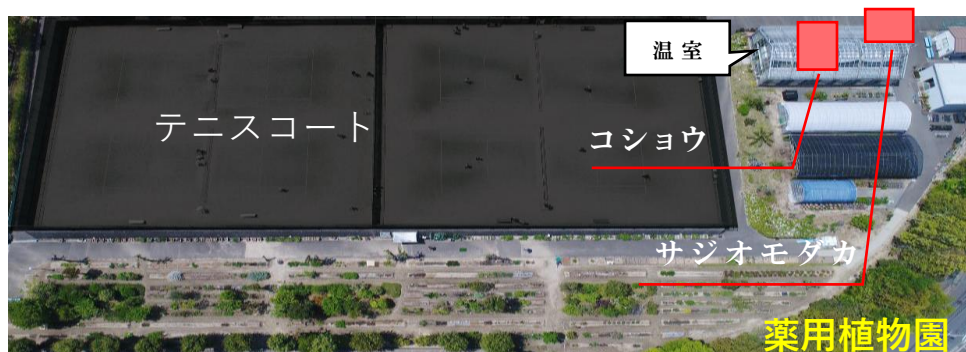
主に黒と白、ふたつの顔を持つ香辛料・生薬

Piper nigrum L.

部位	果実
生薬名	胡椒 (コショウ) 中国薬典2025年に収載
成分	ピペリン (辛味性酸アミド)
薬理	芳香性辛味性健胃、抗うつ作用、抗癌作用
薬能	温裏薬 (散寒止痛) その他の利用として香辛料



インド原産のつる性植物。膨らんだ各節から不定根を出し、他の樹木や支柱に付着して上へ伸びて行き、10 m 以上にも成長します。野生種は本来、単性花をつける雌雄異株ですが、現在の栽培種は、果実を多く収穫するために、両性花をもつ雌雄同株が選抜されています。生薬としても利用されますが、香辛料として方がよく知られています。「胡」は西域の異民族やシルクロードを表している様で、「外国から中国にきた山椒の様に辛いもの」という意味で名付けられたようです。同じように「胡」が付くものに胡瓜 (きゅうり) や胡桃 (くるみ) がありますが、これらにも「西域から伝わったもの」という意味が込められています。果実は熟すに連れて、緑から赤色へと変化します。未熟果を乾燥させ、果皮が縮み、黒くなったものを黒胡椒、成熟果実の果皮を取り去り乾燥したものを白胡椒と呼びます。近年、日本でも緑色を残した胡椒もよく見かけます。



ホームページでも
ご覧いただけます